

Q2 音読がスムーズにできません

【考えられる背景】

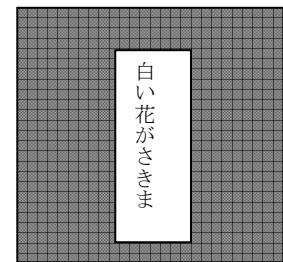
- 視覚的にはとらえられているが、周りの文字と混乱してしまう
- 文字と音が一致していない。形の似た文字を読み間違ふ
「あ」という文字を見て「文字である」と認識し「a」という音と結びつけて声に出すことがうまくいかない場合があります。
- 単語を一つのことばとしてとらえられない
まとまりのある文字の集合（単語）としてとらえられない
例：「りん／ごのは／ながさきました」
- 文字をうまく追うことができず、スムーズに読めない
- 特殊音節の理解が十分でない

【支援への手がかり】

☆ 読む部分だけが見えるようにする

定規や紙を当てる、読む部分だけが見える右のようなページカバーを用いる、文字を指で追いながら読む等、どこを読むのか確認しながら読んでいくような手立てを取ってみましょう。

また、文節ごとに、斜線を引く、蛍光ペンで色分けするなどの手立てで読みやすくなる場合があります。



☆ 単語カード（フラッシュカード）を活用する

単語カードを活用し、文字と音との一致を確かなものにしましょう。まず、1文字次に2文字単語、3文字単語、拗音を含む単語、短文へとステップアップして読めるようにしていきます。

☆ 特殊音節の読みのつまずき

1文字1音でないため、難しい課題となります。促音や拗音のような特殊音節は、発音の仕方がわからなかったり、音を切るところがどこなのかわからなかったり、清音でそのまま読んでしまうなど混乱がみられます。特殊音節の入った単語のカードで読みの練習を繰り返す、促音なら小さい「っ」のところは口から空気が出ていないこと体験させること等で意識させてみましょう。

（例）点線を谷に折り、読みの練習をしながら、「こぶ」と「こっぷ」の違いを視覚と聴覚において認識させる。



☆ 黙読してから読むようにする

何が書かれているのか確認して読むことができるので安心して読むことができます。

☆ 目の追視運動機能を高める

例えば、メトロノームの針の動きに合わせて目を動かす、羅列した数字や文字を左右、上下に読むなどゲーム感覚で取り組ませてみることで文字をスムーズに追うことができるようになる場合があります。

1	4	5	6	2
3		2		7
4	8		9	
8	4	3	6	1

あ	け	に	い	お
わ	さ	ゆ	え	ふ
よ	う	ぬ	と	も
そ	み	き	く	て

☆ 事前に練習をする

音読を学級で行う場合は、前もって読む場所を本人に知らせておき、事前に練習をしておきます。友だちの前で読むことは意外と緊張しそのために集中できず、持っている力が十分出せない場合があります。読むことで自信がなくならないよう励ましながらいきましょう。また、先生や友だちの音読を聞きながら読むことでゆとりを持って読むことができます。

